

# 2023年度（令和5年度） 学校法人ゴスペル学園ゴスペル幼稚園

## 学校評価

〒901-0361 沖縄県糸満市字糸満 1693-2  
TEL 098-994-2145 FAX 098-994-2566  
報告者 理事長 山内友子  
作成日 2024年3月19日

2023年度は本学が学校法人に移行して11年目の年となりました。子ども子育て支援制度の施設型給付の幼稚園として、これからも日々の幼稚園生活がさらにより良いものとなるよう、今年度を振り返り自園の運営や活動を顧み、下記の通り教職員による自己評価を実施いたしました。下記の学校評価を踏まえ、本園の更なる教育活動と教育環境整備の充実、そして教職員の資質向上に努めます。

### 2023年度（令和5年度）の総括

過去3年間の「コロナ禍」からの大きな変化として、昨年(2023年)5月8日に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の位置づけで2類相当から5類へ移行しました。引き続き、過去3年間に培った感染症対策は適宜継続しつつ、園児のマスク着用を求めないなど、「コロナ後」の園生活にシフトできたと振り返ります。保護者の方々のご理解とご協力も、幼稚園としては園生活を継続していく中で大きな支えとなりました。

過去3年間同様に分散形式での開催とは異なり、お誕生会等も全園児が集まって開催する形に戻り、卒園児や地域にも参加して頂いてきた本園恒例の「ゴスペルバザー」など、集団での学びや経験、イベントを再開できたことが大きな喜びとなりました。

父母の会(PTA)役員の皆様や各ご家庭からも多くのご協力を頂き、今年度を締めくくることができ、大きな感謝を覚えています。引き続き、幼児期にとって大切な幼稚園の日々が守れるよう、気を引き締めて幼稚園生活を進めていく所存です。

### 《 教育目標 》

『子どもたちひとりひとりが幼児期を精一杯生きることができる環境を』

「聞くこと」・「考えること」・「伝えること」が幼児教育の中で特に大切な事であると捉え、以下の保育方針をもって保育に携わっていきたいと考えています。

### 《 保育方針 》

『良心を持って判断し、豊かな感受性を備える』

園児たちが体験を通して知識と教養を高め、豊かな心を培い健やかに自律の精神を養い、それぞれの個性を大切に捉える教育をします。

### ① キリスト教保育

神の愛を感じ、人を愛することを目標とした保育

キリスト教保育とは、神の前での良心教育をその生命線としており、このことを踏まえて「本当に大切なことは何か」を園児と共に考えていきます。園児一人ひとりに寄り添い、園児一人ひとりが神と人々に愛されている存在であることを実感できる幼稚園を目指します。

### ② 自由保育

自由で温かい家庭的な環境での保育

それぞれの個性を尊重し、伸び伸びと自己表現ができるよう、日々の様々な活動を通して園児達の発達を支えます。集団生活の中でのルールを学びながら、大切な幼児期に大好きなお友達や先生達とたくさん遊び込むことに重点を置いています。

### ③ 知識を経験として学ぶ保育

伝えること・考えること・善し悪しの判断ができる

他者と関わることにより、他者を理解し、つながりを大切にする。自然に触れ、知ることで園児の創造力と感受性が高まることを目指します。

## 1. 2023年度の重点目標・評価項目

- ① 本園の教育目標・保育方針の理解、その実践と達成ができるよう全職員が努める。
  1. 下記の場面を中心に、園の方針や共通理解を促進する。
    - (ア) 年次ミーティング（年に一度）
      1. 可能な限り、各学期で目標と課題を共有する場を設ける
    - (イ) 教師会（月に一度）※学期はじめの教師会は園運営を中心に
      1. リードする教師を割り当てつつ、教師個人のリーダーシップを発揮する場を増やしていく
    - (ウ) 聖句を考える会
      1. 「聖句を考える会」を月に一度の教師会に組み込む形で、本園の建学の精神にのっとり、キリスト教保育を実践していく時に大切な心構え、予備知識など学ぶ機会を設ける。今年度設定している月毎の「聖句」に沿って、キリスト教保育を皆で考える機会にすることを目指している。
    - (エ) 日々のミーティング（一日に二回、朝と午後）
      1. 必要に応じて、日々の議題設定なども、主任・副主任を中心に教師間での意思疎通、共通理解を深めることができるよう心掛ける。
  2. 上記の話し合いの機会を通して、園の方針をしっかりと各教師が理解したうえで、日々の保育や職務に従事することを改めて確認する。
- ② 園児一人ひとりに対し、全教職員（クラス担任から事務員まで）が個々人の成

長と幼児期に相応しい育ちが保障されるよう必要な情報の共有を図り、園児に最適な環境を提供できるよう日々の課題に共に向き合う。

1. 毎日の朝と午後の教師間ミーティングを情報共有の場とする。休んだ教職員にも情報が共有されるように指定のノートに日々の内容を書き込む。
  2. 現時点で対象児童が課題としていることを共有し、教員として具体的に支える方策を確認する。外部の支援が必要な園児に対しての情報も、できる限り共有して園として一貫性をもって対応する。
  3. 必要に応じて、関りが深い教師や当該園児の保護者とも面談を行い、幼稚園と家庭、また市の保健師や心理士、支援施設等の関係機関と連携して成長過程を共に支える。
- ③ 幼児教育の質の向上を目指し、加盟する研究機関などを通して県内外の研修・講演会等に積極的に参加し、園児との関わりや指導、園運営に役立てる。
1. 新型コロナウイルス感染症の5類移行後も、遠隔（リモート）やハイブリットでの研修参加を考慮し、可能な限り教師の学びの継続と教育の質向上を意識する。対面開催がある研修に関しては、できる限り対面で研修参加できるよう園としてシフト等を配慮する。
  2. 各教員のシフトに配慮して希望する研修に参加できるよう配慮する。園として推奨できる研修にも参加できるよう配慮していく。
- ④ 食育の一環として、園庭や屋上で野菜や果物の栽培を行う。園児自身で育てた野菜や果物をみんなで調理、また食するまでの過程を観察等を通して学び、成長の喜びを感じ取ることを目的とする。※引き続き、衛生面では感染症対策で培ってきた点も継続しつつ、意識して食育活動を実施する。
1. できる限り園児達にとって大切な食物・植物の成長を観察・体感できる食育活動推進をしていく。
  2. 各クラスでも、絵本や図鑑を用い、育てているものやその成長過程を園児自身が意識できるよう、教師からの導入も意識して食育活動を行うよう努める。植物の毎日の成長過程を可視化することで、生物に対する興味・関心を深めていく。
- ⑤ 安全対策として原則毎月1回、防犯・火災・地震等に対応する訓練を実施する。年に2回は消防署と連携（訓練の事前通告を含む）して、緊急時を強く意識した訓練を行う。
1. 教師間でも役割を再確認し、それぞれの訓練で担当となる職員を定めて、教職員の連携を図るとともに、万への備えを全教職員が日頃より意識するよう務める。
  2. 避難訓練などは、避難に要する移動時間も計測しつつ、想定できる範囲で実際の避難行動を意識して行う。年度内で同じ訓練を二回行うことができるときには、前回からの反省等を踏まえて、改善できる点を事前に協議して安全対策の向上に努める。
- ⑥ 園生活について保護者との情報共有を一層促進し、園からの情報発信の内容、質の向上に努める。全教職員がその点を改めて意識して情報発信することを目標とする。
1. 必要な連絡などは、登降園管理システム(以下、コドモン)を通して行う。  
(ア) 人的ミス（連絡等）の可能性をなくすため、事前に分かる出欠の連絡等は電話等の連絡ではなく、コドモンでの連絡を保護者の方にも徹底して頂く。必要に応じて再周知していく。  
(イ) 緊急時や事情がある場合は電話等もできることを改めて周知する。

2. 園児の様子や情報提供も、必要に応じてコドモンで行う。
3. 園児の発達や園生活に対する相談は、電話や面談(定期的のものを除く)で必要に応じて迅速に行う。

## 2. 重点目標・評価項目の達成及び取組状況

### 評価項目① 園の基本方針と実践

(達成) ゴスペル幼稚園の子どもに直接関わる全教職員が園の方針・各クラスやグループの保育内容・目標を把握して共通理解に努めた。中核をなす教職員を中心に、幼稚園としての方向性が浸透し、共有できている。

(取組状況) 年次ミーティングに加え、各学期における全体ミーティングも実施した。各月の教師会についても、事前に準備をしてフルタイム職員を中心に毎月開催できた。内容もスリムにできるところ、より深く情報交換や共通理解するところの分別を意識した。「聖句を考える会」についても、牧師がリードをとり月に一度のペースで実施し、毎月の聖句に沿って園内でキリスト教保育を考える時間を設けることができた。担当牧師が配置され、教師がこれまで以上にキリスト教保育を考える機会が設けられた。日々の教師間ミーティング(朝と午後)も定着し、その場にはいない教職員のための記録の作成なども継続して行った。

学期ごと、毎月、そして日々のミーティングにおいて、目標としている園の方針を理解し、その実践を目的として話し合う時間が設けられていることが、教職員に浸透していると感じる。行事前などスケジュールが多いなかでも、主任・副主任のリードによる事前準備を進め、これからも教職員間で園の方針や共通課題を皆で理解できるよう努めていきたい。

### 評価項目② 園児一人ひとりに対しての育ちの保障と情報共有

(達成) 上記の評価項目①にもあるように、毎日の朝と午後のミーティングでも、できるだけ園児一人ひとりの課題や困りごとを共有できるように努めた。クラス全体を俯瞰する視点と、個々の園児を見る気持ちを考えた。毎月の教師会では、対象園児の育ちの保障と園内での対応を協議し、当該園児にとっての最適な環境を整えることを意識した。

(取組状況) 担任ではない教師も、対象園児の課題等を共有することが大切だと感じると同時に、チーム保育を一層意識した。発達過程のサポートに重点を置いて、市の保健師や心理士、支援施設等との連携も可能な範囲で行っており、関係機関とも引き続き連携を大切にし、園児一人ひとりに合わせた環境構成や寄り添い方を継続して考えていきたい。

### 評価項目③ 教師としての資質や能力・良識・適性

(達成) 本園が加盟する沖縄県私立幼稚園連合会(県内・県外)、キリスト教保育連盟(県内・県外)主催の研修会・講習会に積極的に参加した。WEB(またはハイブリット)研修も引き続き提供されており、園としても各教職員に研修参加できるようシフト等で配慮した。シフト等の配慮は本園ではかなり達成できていると振り返る。

(取組状況) 研修の事前周知も継続し、園からも必要な研修にはできる限り参加できるようシフト等を調整した。研修に参加した教職員には、研修報告書(文章による概要説明と個人の振り返り・展開)を参加した研修から2週間以内に提出させた(キャリアアップ研修については、研修報告書の代わりに修了証を園に提出させた)。研修内容の報告を通して、参加できなかった教師にもその研修内容を周知し、教員としての資質向上に努めた。

2023年度の主な研修参加は下記の通り。

＜2023年度参加研修一覧＞（対面、zoom、オンデマンド）

※下記は沖縄県私立幼稚園連合会、キリスト教保育連盟のみ記載

- 沖縄県私立幼稚園連合会
  - ◆ 第31回教師研修会（2023年6月）（対面6名参加）
  - ◆ 令和5年度ECEQ®公開保育（2023年10月）（対面6名参加）
  - ◆ 主任教諭等研修会（2024年1月）（zoom2名、対面2名参加）
  - ◆ 設置者・園長研修会（2024年2月）（対面1名参加）
- 全日本私立幼稚園連合会、九州地区会、幼児教育研究機構
  - ◆ 九州地区会 設置者・園長研修大会 福岡大会（2023年7月）
    - 2日間、対面1名参加
  - ◆ 九州地区会 第39回教師研修大会 大分大会（2023年8月）
    - 2日間、zoom研修（1名参加）
  - ◆ 全国大会 第38回設置者・園長全国研修（山形大会）（2023年10月）
    - 2日間、オンデマンド1名参加
- キリスト教保育連盟（沖縄部会）
  - ◆ 年次総会/春の研修会（2023年5月）（対面5名参加）
  - ◆ 夏の研修会（2023年8月）（対面4名参加）
  - ◆ 第94回夏期講習会（キリスト教保育連盟本部主催）（zoom2名参加）
  - ◆ 秋の研修会/60周年記念大会（2023年11月）（対面5名参加）
  - ◆ 園長・主任会（2024年1月）（対面2名参加）

### 評価項目③ 保育の在り方、幼児への関りと対応

（達成） 登園から降園まで、園児一人ひとりに合った声掛けや接し方を心掛けた。対象の園児が課題としていることを幼稚園のチーム保育の中で、また個別指導で対象園児に対するアプローチが適切なものになるよう日々の振り返りを通して見直してきた。特に、対象園児に一番近い存在の担任教師を中心に、園児一人ひとりへの必要な関り・対応を意識した。

（取組状況）単に同年齢の園児の発達や成長を比べるのではなく、日常生活の中で園児一人ひとりの発達や成長過程を把握し、全教職員間でその発達段階とその時々の園児個人の課題を共有することを意識した。必要に応じて、教職員ミーティングで個別の園児についてきめ細やかなアプローチができるよう心掛けた。特に、主任、副主任、担任、そしてクラス補助との連携を強化して、園児の細かな身体的動きや情緒的な表現にも留意するように努めた。クラス補助の教員も一緒に課題や目標を共有し、主任・副主任・担任・補助の連携をとりつつ園児一人ひとりに対してより適切な関りが持てることを強く意識した。

### 評価項目④ 食育活動の推進

（達成） 食育の取り組みにおいては、園内施設において教師の管理・指導の下、園児達が主体的に関われることを意識して、野菜や果物の栽培を行うことが年間を通して達成できた（新型コロナウイルス感染症の5類移行後に実施）。

（取組状況）教員の指導の下、園児自身で植えた野菜や果物の成長過程を園児達自身が探求心を持って観察できるよう、導入や声掛けを考慮し、毎朝の水やりや観察にも積極的に参加を促した。植物図鑑や月間絵本で導入されている植物を紹介し、幼稚園にある身近な植物に対して園児がより一層関心が持てるよう教職員も意識

した。食育の取り組みに参加した園児達の反応を教職員間で共有することを心掛け、今後の食育活動に繋げていくことが随時話し合われた。今後も食育・栽培活動の幅を広げるために、環境整備を進めていく方向性が確認された。

#### 評価項目⑤ 幼稚園における安全対策

(達成) 安全対策として毎月、防犯・火災・地震等の訓練を実施できた(安全や訓練に対する講話を含む)。訓練の前後に、教師から園児向けの注意点や振り返りのお話も大切にしている。年度内に2回の消防署と連携(訓練の事前通告を含む)を実施した。消防署との連携時には、実際に職員室から消防に連絡し、全園児、全教職員が参加して、万一来ることを心がけている。AEDの講習も多くの教職員が参加することができた。

(取組状況) 火災訓練では、出火元を訓練毎に変えて、各訓練で臨機応変に対応できているか確認した。園児に実際に「自分の命を守る」という意識を持ってもらうことを意識した。地震後の津波を想定した訓練も、避難指定場所の近くの小学校への避難訓練を実施した。避難時(地震・津波訓練)の時間も引き続き複数回にわたり計測し、設定目標の時間と照合しつつ避難意識を高めている。素早い避難を意識しながら、横断歩道を渡る際の信号への意識、また園児の安全確保を職員間で何度も確認し、緊張感を持って訓練を実施した。

防犯訓練では、不審者対応・対策を教職員間で共有するようにし、園内の複数箇所に設置されている防犯カメラを職員が随時確認する等、部外者の園内への出入りを必ず確認するよう心掛けた。教職員には、改めて防犯カメラの位置と毎日稼働しているかの確認を義務付けている。警察署員の指導を受けることができ、実際に通報する際の注意点や、時間的に何分くらい不審者の足をとめるかといった点も助言をいただいた。

#### 評価項目⑥ 保護者への対応と幼稚園からの連絡

(達成) 毎月のお知らせ等(園ホームページ、園だより、一斉メール)で園生活に必要な事柄を保護者に事前にお知らせし、日々の活動や園行事を円滑に進めることができている。2019年度から登降園管理アプリ「コドモン」の運用を開始しているが、事務局における対応も含め、幼稚園のICT化が一定程度の成果を見せている。

(取組状況) 持ち物や行事の日時や集合場所といった基本のお知らせに加え、行事毎にアンケートを実施して保護者からご意見を頂戴し、当該行事の分析と今後の課題やチャレンジを協議する機会を設けている。特に、職員として気づきにくい保護者の視点を意識しつつ、こども目線を意識して園でできる改善点を考察するよう努めている。コロナ後ということで、行事がある程度通常通りの規模で実施できるようになり、当該行事の実施・進め方についても教職員間の話し合いに加え、保護者を中心に関係者からの意見を取り入れることを意識した。

登降園管理アプリ「コドモン」によって、登降園の際の各園児の登園・降園時刻、毎月の保育料、給食の献立表や各グループスケジュールなど、多くの情報を保護者のスマートフォンで確認できるようになっている。「コドモン」を導入して4年近く経過し、保護者の間でも本アプリの利用が定着した。お休み、遅刻、預かり保育の申込連絡も、保護者アプリからいつでも(24時間体制)幼稚園に連絡できるよう設定しており、教職員にとっても連絡がデータで残るので連絡ミスの防止に繋がっている。今後も人的ミスやシステム上の問題点に留意し、事務局を中心に幼稚園の現状に適したシステムの稼働を目指したい。